

# 平成23年10月 東京地区百貨店売上高概況

平成23年11月18日

## I. 概況

1. 売上高総額	1,253億円余
2. 前年同月比	-1.9% (店舗数調整後/4か月連続マイナス)
3. 店頭・非店頭の増減	店頭0.2%(90.4%) : 非店頭-18.5%(9.6%) ( )内は店頭・非店頭の構成比
4. 調査対象百貨店	13社 26店 (平成23年9月対比+1店)
5. 総店舗面積	915,720㎡ (前年同月比:-2.9%)
6. 総従業員数	19,025人 (前年同月比:-8.3%)
7. 3か月移動平均値	3-5月 -10.7%、4-6月 -3.1%、5-7月 -1.7%、 6-8月 -1.2%、7-9月 -2.5%、8-10月 -2.8%

[参考] 平成22年10月の売上高増減率は2.7%

### 【10月売上の特徴】

- (1) 東京地区の全般的な商況は、全国同様に気温・天候の変化と連動する形で推移した。気温の高い日が続いた中旬までは低調だったが、下旬からの冷え込みで重衣料などが動き始め、月の後半に挽回するという構図であった。
- (2) 東京地区では主力の衣料品が前年割れであったが、紳士服については各店で改装や新ブランド投入などの強化策が取られた結果、3.1%増と比較的大きな伸びを示した。
- (3) 10月は都内各店で趣向を凝らした様々な催事が展開された。地方物産展をはじめ銀座地区のファッション共同企画やネット企業とのタイアップ企画などが話題となった。
- (4) 東京地区では身のまわり品が売上を伸ばしたが、中でも婦人アクセサリについては、ブライダル需要の盛り上がりなどを背景にほぼ全店で前年比プラスとなった。
- (5) 10月から早期受注がスタートした「おせち」は、絆消費や家庭回帰のトレンドを背景に、昨年以上に順調な滑り出しを見せている。

### 【要因】

- (1) 営業日数増減 30.5日 (前年同月比-0.5日)
- (2) 入店客数増減 (回答店舗数で見る傾向値/前年同月比)  
①増加した: 5店、②変化なし: 4店、③減少した: 11店、④不明: 1店
- (3) 10月歳時記(体育の日、旅行シーズンの売上(同上))  
①増加した: 3店、②変化なし: 6店、③減少した: 5店、④不明: 7店
- (4) 翌月売上見通し(回答店舗数で見る傾向値)  
①増加する: 1店、②変化なし: 12店、③減少する: 7店、④不明: 1店

## 東京地区百貨店 売上高速報 2011年10月

※店舗数調整後 ( )が調整前

	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率 (%) ※
<b>総 額</b>	<b>125,371,509</b>	<b>100.0</b>	<b>-1.9 ( -2.7)</b>
紳士服・洋品	12,555,755	10.0	3.1 ( 2.9)
婦人服・洋品	28,920,995	23.1	-1.2 ( -3.3)
子供服・洋品	2,414,699	1.9	-4.4 ( -4.4)
その他衣料品	2,787,180	2.2	-10.9
<b>衣 料 品</b>	<b>46,678,629</b>	<b>37.2</b>	<b>-0.9 ( -2.3)</b>
<b>身のまわり品</b>	<b>17,240,656</b>	<b>13.8</b>	<b>0.5 ( -2.0)</b>
化粧品	6,442,406	5.1	2.2 ( -0.2)
美術・宝飾・貴金属	6,468,728	5.2	-1.6
その他雑貨	6,498,155	5.2	-0.6 ( -1.1)
<b>雑 貨</b>	<b>19,409,289</b>	<b>15.5</b>	<b>0.0 ( -1.0)</b>
家具	1,750,162	1.4	-14.7 ( -14.9)
家電	784,975	0.6	0.4
その他家庭用品	4,238,302	3.4	-8.1 ( -8.1)
<b>家庭用品</b>	<b>6,773,439</b>	<b>5.4</b>	<b>-9.0 ( -9.1)</b>
生鮮食品	4,610,713	3.7	-2.8 ( -0.1)
菓子	6,867,324	5.5	-3.6 ( -2.7)
惣菜	6,911,173	5.5	7.5 ( 8.9)
その他食料品	8,436,510	6.7	-4.2 ( -3.5)
<b>食 料 品</b>	<b>26,825,720</b>	<b>21.4</b>	<b>-1.0 ( 0.3)</b>
食堂 喫茶	3,153,761	2.5	-2.5 ( -3.1)
サービス	2,310,808	1.8	-2.6 ( -5.6)
<b>そ の 他</b>	<b>2,979,207</b>	<b>2.4</b>	<b>-26.3 ( -26.2)</b>

注) 構成比は計算処理上必ずしも100%にはなりません。

本統計には消費税は含まれておりません。

対前年増減(-)率 (%)

※

商品券	3,324,293 千円	-45.6 ( -45.8)
従業員数	19,025 人	-8.3
店舗面積	915,720 m <sup>2</sup>	-2.9

営業日数	30.5 日	前年	31.0 日
------	--------	----	--------

## Ⅱ. 商品別の動き

主要5品目では、身のまわり品が3か月ぶりのプラス。マイナスは衣料品、家庭用品、食料品。雑貨が前年並みとなった。また、紳士服・洋品、化粧品が3か月ぶり、家電が4か月連続、惣菜が3か月連続のプラスとなった。

### 【商品別売上前年比の寄与度とトレンド】

商品別	売上前年比	寄与度	トレンド
<b>総額</b>	-1.9	—	4か月連続マイナス
紳士服・洋品	3.1	0.3	3か月ぶりプラス
婦人服・洋品	-1.2	-0.3	8か月連続マイナス
子供服・洋品	-4.4	-0.1	2か月連続マイナス
その他衣料品	-10.9	-0.3	42か月連続マイナス
<b>衣料品</b>	-0.9	-0.3	4か月連続マイナス
<b>身のまわり品</b>	0.5	0.1	3か月ぶりプラス
化粧品	2.2	0.1	3か月ぶりプラス*
美術・宝飾・貴金属	-1.6	-0.1	5か月ぶりマイナス*
その他雑貨	-0.6	0.0	2か月連続マイナス*
<b>雑貨</b>	0.0	0.0	4か月ぶりマイナス
家具	-14.7	-0.2	7か月連続マイナス
家電	0.4	0.0	4か月連続プラス
その他家庭用品	-8.1	-0.3	2か月連続マイナス
<b>家庭用品</b>	-9.0	-0.5	2か月連続マイナス
生鮮食品	-2.8	-0.1	3か月ぶりマイナス*
菓子	-3.6	-0.2	4か月連続マイナス*
惣菜	7.5	0.4	3か月連続プラス*
その他食料品	-4.2	-0.3	9か月連続マイナス*
<b>食料品</b>	-1.0	-0.2	4か月連続マイナス
食堂喫茶	-2.5	-0.1	2か月連続マイナス
サービス	-2.6	0.0	5か月連続マイナス
<b>その他</b>	-26.3	-0.8	4か月連続マイナス
<b>商品券</b>	-45.6	-2.2	6か月連続マイナス

(注) 化粧品、美術・宝飾・貴金属、その他雑貨、生鮮食品、菓子、惣菜、その他食料品については2006年1月から細分化したため、2007年1月からのトレンド

お問い合わせは、日本百貨店協会 森・佐藤・西田まで  
 TEL 03-3272-1666 ホームページアドレス <http://www.depart.or.jp>